第８０号
令和5年10月30日
編集責任者　石井　卓也

清里農連通信

発行　清里町農民連盟
清里町羽衣町2番地
TEL 0152-25-3792
FAX 0152-25-3793

産業建設課との意見交換会

１０月６日農協会議室にて、役場産業建設課との意見交換会を開催しました。例年は町長との懇談会を行っていましたが、細かい要望等を直接関連する部署に伝えることができると考え、このような運びとなりました。

意見交換の内容としては、鳥獣被害対策、支障木処理、通信網整備、生産資材高騰対策を大きなテーマにして行いました。

シカの駆除頭数は９月末の時点で２７０頭と、Ｒ４年の５００頭に並ぶ勢いで駆除されているようですが、まだまだ農作物の被害が減ったとは感じられない状況です。町外から山を越えてやってくるシカも多いと思うので全道的に協力して駆除できればいいのではという自分の考えはあります。冬季の誘引駆除でも結果を出しているようなので、今後もどんどん駆除していただきたいと思います。

支障木の処理については、今年については５kmほど行われたようです。要望のあった箇所を優先でやっていただいてるようなので、毎年連盟で行っているアンケートも無駄ではないのかなと感じたところです。道路用地ではない私有地等の支障木に関しては勝手に伐採することができないものなので、土地所有者の協力も必要だそうです。

電波の届かない畑に対する通信網整備については、やはり人が住んでいない地域ではなかなかむずかしいものもあるようです。ＧＰＳに関する電波状況もありますが、やはり事故などあったときに携帯がつかえないと困るので、どうにかしたいところです。

生産資材高騰対策については、昨年は地方創生臨時交付金を活用して対策を行ってもらいました。今年も国の対策等にあわせてなにかしら考えて行きたいということで、資材高騰で苦しいところに少しでも助成等おこなっていただけるとありがたいなと思いました。

今回の意見交換の場で各地区の執行委員からみなさんの要望等を伝えられてとてもよかったと思います。今後もなにかあれば地元執行委員を通していろいろと伝えてくれれば良いと思います。

岩　本

澱粉工場受入調査

１０月１１日に第２班として５名で受入調査を行ってきました。この時点での品種別ライマンは、コナヒメ18.42％、コナユタカ18.20％、アーリースターチ19.35％で、昨年より1.5～1.7％程度低い数字になっています。反収については、工場操業前の見込みで７４俵という数字が出ていましたが、本契約後では６９．３俵と５俵程度落ち込んでいました。

今年は低ライマンにより、原料をいつもより多く消費して澱粉を作っていて、更に本契約の数字を加味して残量調査を一週間早めて行い、工場操業期間も当初の１１月１３日から一週間早まる見込みでしたが、残量調査の結果からさらに一週間程度短くなり、１１月１日で操業終了となっています。

また、今年度産の澱粉から『固有用途格差金』という、澱粉工場が行っているフレコンのキャップやユーザーの要望に答えている部分に対して、ＪＡ１．５円、ホクレン０．７５円、全農０．７５円と、キロあたり３円の拠出金を出すというものを行うそうです。これは出来た澱粉全量にかかるお金ではなく、例えば清里で８０万袋澱粉が出来たら、その全体の６０％程度にかかるお金で１８００万円ほどがプラスされ、農家２００軒で割ると１軒９０万程度入ってくる見込みとなっています。

石　井

編集後記

暗くなるのがすっかり早くなり、朝晩が寒くなりやっと秋らしくなってきました。収穫もあとわずかになり、麦の冬枯れ防除を始めた人もいるんではないでしょうか？

数日前に芋掘りをしていたら、隣で住宅の解体をしていました。私の親の代の農家さんで後継者が居なかったので離農された後、数年前に旦那さんが町の施設に入り、この夏に奥さんがケアハウスに移られたので空き家になっていました。あっという間に壁が無くなり、屋根が落ちて基礎だけになったのを見ながら寂しさを覚えました。今まで同じ様に仕事をしていた農家さんが地域から居なくなってしまうのは何時も寂しいです。残った私達で地域をどうしていくのか？って考えると気が重くなります。

目　黒